

ことぶき共同診療所だより

第 18 号

2004 年 11 月 20 日発行

横浜市中区松影町 2-7-17 リバーハイツ石川町 2F

電話とファックス 045-651-2305

<http://www.kyoudouclinic.com/>

発行：ことぶき共同診療所

目次

9年目の秋 ―いよいよ医療法人にすることにしました―	田中 俊夫
デイケアではじめたこと	大平 正巳
診療所“大”運動会	鳥潟 恭子
寿町関係資料室から	松本 一郎
“診療室から”(14)―鍼灸院より―	新井 育子
学習会報告	鈴木 伸
今年の夏合宿	
寿町の人々はどのように変わったのか	田中 俊夫
ことぶき共同診療所の夏合宿に参加して	坂 清隆(中福祉保健センター)
夏合宿に参加したみなさんへ	森 梓
復帰の弁	加固 実里
職員自己紹介	河野 規美子
共同診療所・鍼灸院ガイド	



9年目の秋

—いよいよ医療法人にすることにしました—

今年もまた、思い出深い年となりました。来月はもう忘年会。賑やかな年の瀬となることでしょう。何もかもが、大きな数になってしまいました。患者さんの数は、一日最大で186人と、まだまだ天井しらずに増えており、仕事をしてくれる職員の数も、アルバイトを含めて25人という大規模な職場となりました。私個人の開業という形で始め

た仕事でしたが、私が個人的に責任をもちうる領域をはるかに超えてしまっているのが現実です。それで、しばらく前から考えていたことではあるのですが、私抜きでもこの診療

所が永續してくれることを願い、又何人もの方々に共に担って頂くことを願って、当診療所を医療法人にすることにしました。春から準備をしてきたので、この“たより”が皆さんに届く頃には、もう法人となっている筈です。関係者の皆さんには、これからもよろしく応援して頂けるようお願い致します。

さて、医療的には、前号でもお知らせした通り、ドッツをやっている(=毎日来てもらっている)患者さんの増加(30人以上)、猛暑であった夏場の脱水による点滴の増加、アルコール依存症、薬物精神病の



患者さんの増加等がありました。あとは、例年通りのデイケアの行事(潮干狩り、田植、川遊び、バーベキュー、運動会等々)が行われました。残念ながら、台風のため、稲刈りは中止になったのですが、今年で3回目を迎えた運動会の方は、50人近くの方が集まり、大変盛り上がりました。車椅子の障害者も含め、50~60代以上のおじさん達が、赤白の鉢巻を締めて、玉入れに、綱引きにと、若い女性職員達と一緒にになって、秋の日を子供のようにはしゃいですごしました。

6月に資料室の方から、“寿町ドヤ街”という刷誌が刊行されたことも、今後を考えると、大きな第一歩であったかもしれません。今回の第1号に続き、第2号以下の発刊に

期待したいと思います。

又、今年度は、既に2回鈴木先生の手によって、関係機関に呼びかけた学習会が催され、多くの方々の参加を頂きました。夏合宿も楽しく行われました。私としては患者さんの数が多くなりすぎてしまい、精神的にも、体力的にも、すっかり厳しくなってしまう、他の医療機関の参入、利用、新しい医師の参加を切に祈るという状況なのですが、今年もあった、いくつもの“楽しいこと”を心の灯し火にして、もう一年頑張ってみたいと思っています。

(田中 俊夫)



デイケアではじめたこと

デイケアでは、今年6月より利用者さんによる「朝の声だし」をはじめていきます。はじめは、スタッフ会議の中で出された「1日の生活(デイ)を通して一度も声を出していない人がいる」との発言が発端でした。当デイケアは1日1日をゆっくり安全に過ごす場を提供する生活安定型デイケアとして設立された経緯があります。そこに照らし「生活の中で一言も自分の意見を発しないのは生活の質から考えてどうなのか？」との議論が起こり、この流れの中から多少強引ながら声だしという方法が選択されました。

デイでは朝のミーティングを行っていたので、そのプログラムに「声だし」を組み込むことになりました。問題は毎朝のテーマをどうすればいいのか。選択権は担当スタッフに、回答権は利用者さん各人に委ねられました。今のところ、各人のセンスにより、毎朝提案されるテーマは、ある日は「昼食の焼きそばの具材は何がいい？」や「好きな虫の鳴き声は？」といった嗜好に關す

るものから「休日の過ごし方は？」や「最近楽しかったことや感動したことは？」といった生活状況に関するものなど多種多様で推移しています。

この取り組みが良いのか悪いのか？ はたまた関心を持たれているのか、否かは利用者さん各人に聞かなければ分からないことなのですが、スタッフとしては、利用者さんの感性やこころの動き、体調などをこれまで以上に把握出来るようになりました。又、ある人の発言をタネに全体が談笑に興じるなど思わぬ副産物も生まれています。

今後、時期が来ればその一端を紹介出来る時が訪れるかも知れません。皆さん薄くご期待ください。

(大平 正巳)



診療所“大”運動会

10月26日火曜日、吉浜町公園において第三回診療所“大”運動会が行われました。

台風や雨のため二度も順延しましたが、この日は雲ひとつない素晴らしい秋晴れで、外で体を動かすのが快い気候でした。昼食後、メンバーとスタッフが協力し、観戦場所作りや、トラック作りの小麦粉白線引きなど、公園での準備は時間通り完了。開始に合わせて、ことぶき介護やコスモスの利用者さんが、ヘルパーさんと一緒にぞくぞくとやってきます。13時15分、ことぶき介護の梅田さんにご挨拶いただき、その後でふらりと登場した田中先生が、再び運動会の開会を宣言しました。

出場者は二組に別れ、それぞれ紅白の鉢巻をまき、いよいよ競技の開始です。まずは個人競技の徒競走、まじめな顔で走って、みんな完走。続いて綱引きを三回戦。この紅白対抗戦は、拮抗する試合におおいに盛り上がりま^{きっこう}した。そしてパンくい競争。「手を使ってはいけない」というルールを逆手にとり、腕でパンをはさみ取る知能犯から、飛び上がってパンに食らいつく^{もさ}猛者ま

で、様々なキャラクターが見られました。激しいスポーツの後は休憩。炭坑節をひと踊りして、また競技再開です。仮装障害物競走では、巨大ゴキブリ、魔法使い、医者、トナカイ、農婦の格好に着替えて競争しました。バットにひかれた小麦粉の中の、パイン飴を探しあてゴールに向かってもう一走り。変わった服装におどけながら、小麦粉を顔にまぶしてゴールした笑顔が印象的でした。ボール回し競争は、回を重ねるごとにスピードがアップし、来年が楽しみとなりました。次の玉入れでは、果敢にダンクシュートをする白組が二度勝利。しかし赤組が最後に粘り勝ちし、全競技を終えました。

団体選の結果、寿福祉プラザの島野さんの手で、優勝の白組にレトルトカレー、準優勝の赤組にインスタントラーメンが送られました。予想外にラーメンが人気でしたが、その理由は「カップラーメンは、それだけで一食になるから」。ドヤ暮らしの現実的な答えに、スタッフもなるほど！と納得しました。最後に、白組チームのメンバーさんが、急なお願いにもかかわらず閉会の挨拶

拶を快く引き受けてくれ、楽しい有意義な運動会でしたと、閉会の言葉をのべました。

天候に翻弄されましたが、三度目の正直で開かれた運動会。コスモス、寿福祉プラザ、ことぶき介護の皆さんのご協力の上、楽しい運動会となりました。総勢48人で、雲ひとつない美しい青空と、体を動かす楽しみを存分に

味わいました。予想以上の大人数で、明るくにぎやかな運動会でした。

応援して下さったことぶき福祉作業所を含め、訪問看護ステーションコスモス、寿福祉プラザ、ことぶき介護など、ご協力いただいた各関係機関の皆様には感謝したいと思います。

(鳥潟 恭子)

寿町関係資料室から

寿町関係資料室では、6月20日に、寿町にまつわる研究調査成果や論考などを公表していく目的で、小冊子『寿町ドヤ街』を創刊いたしました。創刊号となる第1号では、「寿町の地域医療と福祉」というテーマで編集しました。本号は、昨今の、寿町における医療・福祉の状況において、何が現在の問題や課題として浮び上がっているのか、当診療所での地域医療の取り組みはどのようなものかなどを伝えています。具体的な内容についてはここでは述べませんが、目次は上記のとおりです。ぜひ一読していただけると幸いです。

個人的なことを申しますと、「寿町の地域医療と福祉」というのはなかなか大きなテーマであり、このような冊子の刊行は初めての試みでもあり、寿町に関係する地域関係機関・団体、行政機関や医療機関にも配布させていただいたので、刊行直後はどのような反応があるのか、あるいはないのか、私の中では、それまで余り感じたことのない緊張感が湧き起こりました。幸い、好意的な感想

『寿町ドヤ街』第1号目次

1. 田中俊夫「横浜簡易宿泊所街の地域医療を目指して」
2. 鈴木 伸「寿町における医療について - ことぶき共同診療所に勤務して - 」
3. 松本一郎「寿町における医療福祉の問題」
(レイアウトや版下作成は、久保木泉が担当)

を多くいただきました。

私も執筆者の一人として加わらせていただきました。かなり力を込めて書いたつもりです。その分、どのような受けとめられ方や読まれ方をするのがあまり予想できず、そのような揺れ動きの中であって、それなりの個人的な経験の中から、「確信している」と思っていることに触れたつもりだと自分に言い聞かせています。またその時代や時期に起こった事実や目撃した重要な出来事は、ある程度まとまった形で述べる必要も感じていました。残さないことには、歴史的に消去されたり、忘却されてしまう結果になるかもしれないからです。

さて、続く『寿町ドヤ街』第2号では、少し過去にさかのぼって、寿町における歴史的側面をテーマとする予定です。ご期待ください。

(松本 一郎)

『寿町ドヤ街』を読みたい方は、当所までご連絡ください。送付させていただきます。

“診療室から” (14)

鍼灸院より

どうして年齢を重ねるごとに月日が過ぎていくのを速く感じるのでしょうか？

理由その一、若い頃に比べて動作が鈍くなり、何をするにもスローテンポになるから。

その二、若い頃に比べてまわりのスピードについていくのに必死になるから。その三、若い頃に比べてやるべき事が増えて忙しくなるから。理由はどうであれ私が「ことぶき共同診療所」に来るようになってからの一年四ヶ月は本当に「あっ!!」という間でした。振り返るにはまだまだ短い期間ではありますが、この間に私なりに感じた事を記してみたいと思います。

患者さんは腰が痛かったり肩が痛いなど、痛みを訴えて来院してくる人がほとんどです。しかし、よく話を聞いてみると、不眠に悩まされている人もとても多いのです。その不眠が痛みにより出現しているものであれば痛みを取る治療に専念するのですが、痛み自体の訴えが少ない場合は痛みより心身のリラックスが出来るような治療をしようと思っています。

ある日のAさん。睡眠薬が効きすぎているのか、フラフラしながら「眠れないんだよー」と言いながら入室。腰も肩も痛いというが、今回は無視。さて治療を始めて15分位すると話声がしなくなり、30分が過ぎた

頃には、スースーと寝息が聞こえてきました。治療が終わり声をかけると、「眠れないんだよなー。」とまた一言。「でも今寝ていたみたいよ」と少々つつこみを入れ、「今日は眠れるかもよ」と言って終わりにしました。帰りがけに「すっきりした」と言ってくれたので私も一安心。彼は眠れないのではなく、眠れた気がしないだけなのかもしれません。たとえ本当は眠れていたとしても、その気がしないという事は辛いと思います。不眠は心のストレスが大きく関係している為(ストレス以外にももちろんありますが)私には根本的には治せないのかと思い、自分の力不足を痛感します。

でも体の方の寝る環境を整える事ができれば寝られて心が少し軽くなる事もあるのかなとも思います。一人部屋で眠れず時間が経つのを待っているのはどんなにか辛い事でしょう。せめて鍼灸院に来た時には、その辛さを語ってもらいたいと思っています。最近思います。ことぶきの人は正直な人が多いのではないかと。うれしい事も嫌な事もストレートに表現します。それにつられて私も喜んだり怒ったり、時には反発したりと気持ちが動きます。でも考えてみると、そうやっているんな事を話してくれるという事はうれしい事なんですよ。鍼灸院に来て少しでも心の荷物を降ろして帰ってもらえたらいいなと思っています。

(新井 育子)



学習会報告 ことぶき共同診療所学習会をおえて



診療所では4月以降2度の学習会を行いました。

4月には「よく使う薬の作用と副作用～クスリとリスクは紙一重～」というテーマで、日常よく使う代表的な薬の説明と注意すべき副作用についてのお話をさせていただきました。どんな薬にも薬疹、アレルギーによるショックなど副作用があること。糖尿病の薬では低血糖に注意しなければならないこと、もし糖尿病の人で意識障害があった場合は低血糖の可能性があるので糖分をとらせてから医療機関につなげること。外用薬もステロイドのはいつているものがないもので作用が正反対になることがあるので漫然と使わないこと。など、日常よく使われる薬に関して注意すべき点と対処の仕方について話をさせていただきました。

また10月には「アルコール依存症の誕生と治療の変遷」というテーマで、アルコール依存症が歴史上いつごろ誕生したのか？という少しマニアックな

話とともに、アルコール依存症という病気がどのようなもので、それに対してどのような治療が行われてきたのか？という歴史の話をさせていただきました。

アルコール依存症が一般的になったのは世界的にもアルコールの大量生産が可能になった近代以降であり、労働者のストレスを発散するための安価な薬物としてアルコールがどんどんでまわったことがアルコール依存症の背景にあること。また、治療に関してはアメリカの禁酒法以前の個人的な精神療法では殆ど効果がなく、AAなどの自助グループができるようになりようやく回復の可能性が生まれてきたこと、しかし、それもイチローの打率程度であること。どのようなタイミングで介入したらよいかという一般論はあるが、どこで本人が本気で断酒しようという気になるかは予測不能であり、チャンスをみて粘り強く関わる必要があるなどのお話をさせていただきました。

勉強会の企画当初は人がどのくら

い集まってくださるのか？と少し心配しましたが、そんな心配をよそにどちらも20名を超える参加者がありました。顔ぶれはヘルパー、ケアマネージャー、ケースワーカー、看護師など多彩で、話のあとでの行われた質疑応答も大変白熱し、「食事をぬいたからといって「食後」に薬を飲まない人がいるがどうしたらよいか？」「飲み忘れた薬を眠る前にまとめのみしてよいか？」など、現場に根ざした具体的、かつ鋭い質問が多く、なかには盲点になっており返答に困るような質問もありました。

また、アルコール依存症ではケアマネージャーさんから現在抱えておられる難しいケースについての質問があり、どのように介入していったらよいかについてさまざまな立場より意見が出されました。

かつて、予備校で講師をしていたと

きにもこれほど熱心な聴衆はおらず講師冥利に尽きたのですが、必死に答えながらも自分の至らないところも多々あり、今後精進せねばと痛感させられました。

普段、同じ患者さんを支えるということでは一緒に働いているのですが、如何せん、お互いに時間がなくどうしてもコミュニケーション不足となりがちです。今後もお互いの意見、考えを出し合い、少しでも実りある医療をおこなっていくためにこうした学習会が利用できればと考えています。このようなテーマで学習会をして欲しいなどの要望がありましたらお気軽に診療所までおよせ頂ければ幸いです。

(鈴木 伸)

今年の夏合宿 2004

8月21日から22日にかけて、伊豆の城ヶ崎海岸で第8回目の合宿を行いました。前回の合宿は台風と遭遇し、散々でしたが、今回は二日とも海水浴ができ天候に恵まれました。診療所スタッフ、寿医療班、福祉プラザ、福祉事務所などから、参加者はのべ23名でした。合宿史上初となりますが、自転車でかけつけた方もおられました。

学習会は、1日目は、前半が松本一郎「疾病と野宿に関する調査中間報告」で後半が田中俊夫「寿町の人々はどのように変わったのか」。田中俊夫さんの報告は長期的な観点から寿町の現状に対し問題提起を含んでおり、以下その概要をお伝えします。2日目は、鈴木伸「アルコール依存症の誕生と治療の変遷」。合宿らしい特訓クイズもあり、朝の眠気も吹き飛んだように思います。

今回、初参加の坂さんと森さんには、参加した感想を寄せていただきました。

寿町の人々はどのように変わったのか

田中 俊夫

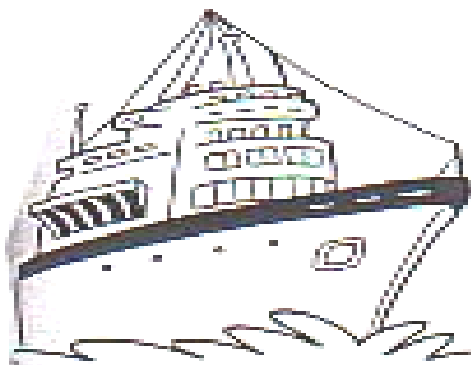
今年の合宿では、メインの学習会は鈴木先生と松本君にやってもらったのですが、私はこの間、ことぶきに住んでいる人達の変容について、つくづく思う所があり、今後どう対処していったらいいのだろうと考えていましたので、そのことに関して問題提起の形で話しをさせて頂きました。以下の文章は、その「はじめに」の部分と「おわりに」の部分の梗概こうがいです。

私が寿町に住む人々と接し始めてから、約40年がすぎようとしている。その間に寿町に住む人々は、大きく

変化してきた。

その始めの頃、寿町は日雇労働者の町であり、その又半分は港湾関係の仕事をしていた。その頃、港湾関係の仕事の事を「船舶(センバク)」と呼び、働く場所によって、本船(ホンセン)とか、倉庫とかとも呼んだ。重労働だったが、賃金は他よりよく、山谷より日当で100円は高いと言われた。戦前の沖仲仕の雰囲気を持っている人達がまだ残っていたし、又体力のある若い労働者が多く、バイキ(袋物)とか、冷凍(魚介)とか、バナナとか、肩でかついで荷揚げした。

夜勤もあり、二部通し(昼-夜勤)、三部通し(昼-夜-昼勤)もあった。家族もちも多く、子供達もたくさんいた。労働者は体力のあるうちは港湾で働き、年をとってくると陸(オカ)の仕事(土木・建築)に変わる傾向があった。あの頃から30~40年たち、港湾労働はコンテナ化を始め、大幅に機械化、合理化された。昔よく聞かれた「浪人組」だの「優先班」だの「ネカタ」「ポンコツ」等、港湾労働にまつわる言葉は死語になった。「アオテ」(青手帳)でさえなくなった。現在寿町に住んで、港湾労働で暮らしている人は、ほとんどいないと思う。労働の種類で言えば、港湾労働の割合が減るにつれ、土木・建築の割合が増加した。又、1970年代迄と思うが、鶴見から横須賀迄の湾岸の造船所(日本鋼管鶴見造船所、浅野ドック、石川島播磨、住友造船、浦賀ドック等)に、かなりの数の寿の労働者が“さびおとし”の



仕事(サンダーかけと称する)を中心に働きに行っていた。

土木・建築の仕事の中味もずい分変わった。かつてあった舗装や配管(下水等)の仕事は、一回りしてしまっ、今はあまりない。重機(ユンボ等)が中心になる仕事が多くなり、重いセメント袋や鉄筋を人間が担いでいた時代は遠い昔である。それでもバブルの頃はまだ仕事があり、日本人の若年労働力が3Kを嫌って日雇寄場からいなくなっていくのに代わって、フィリピン、韓国等からの外国人労働者が寿町でも増えた。しかし、平成2年を頂点とするバブル経済の崩壊によって、日雇労働者の仕事は激減し、一応、景気が回復してきたと言われる昨今でも、雇用は超低水準で停滞している。外国人労働者も激減した。それでもなお、寿ドヤ街は拡張を続けており、ドヤ代が下がることもない。日雇労働によって得られる賃金(デズラと言う)は、最盛期より下がっているのに、ドヤ代の平均値は上がっていると見られ、日雇労働者として寿町で暮らすことは、増々困難になっていると思われる。

従って、寿ドヤ街はその住んでいる人々の中味を大きく変えてきている

ものと思われる。そのような問題意識の下に、過去の資料と現在の平成16年6月～7月に聞きとりをした、ことぶき共同診療所通院患者さんによるデータと比較してみた。

寿地区居住者の変貌は、大きくは日雇労働者から生活困窮者(病人、障害者、老人を主とする)への変貌であると予測されていた。そして、前者の日雇労働者自身が、高令化して稼働力を失い、又まだ稼働力があっても失業化していること、及び後者の生活困窮者が新たにドヤ街居住

者として参入してきており、ほとんど多数派になりつつあることがみてとれる。新居

住者が寿町に定着する媒介項となっているのは「はまかぜ」の存在とパン



券・ドヤ券であると考えられる。全国各地から寿地区への流入が続いており、先日も東京の府中刑務所出所者で相談に行った日野市役所の指示で、寿に来たと言っている人がおり、少々驚いている。東京の隅田公園で初めて青テントを張ったのは自分だと言う人がいたり、神奈川県下各地でのNGOのパトロールの方々に教えられて(連れられて?)寿に来たという人達がいたり、鹿児島刑務所の中で寿町はよく知られていた、と言う人がいる。

私達の“ことぶき”は全国の広範な地域から、とりあえず宿泊する所のない、生活困窮者を引き受けつつあるように見える。そのことにたじろぐつもりはないのだが、そうした事態に対して、国や自治体や又、私達関係者はどのように対処していったらよいのであろうか、と考えこんでしまうことがある。

ことぶき共同診療所夏合宿に参加して

中福祉保健センター保護課
坂 清隆

寿に来て一年目。入庁して一年目。もっと寿について知りたい、そこに暮らす人々に対して自分は何ができるのだろうか...そんなモヤモヤとした気持ちのときに夏合宿のお話をいただきました。私にとって寿について語り合える仲間というのは保護課の職員ぐらいしかいなかったもので異なる立場の方々とおのように腹を割って語り合えたのは本当に貴重な経験でした。そして日々の業務はシリアスなものなのに診療所の職員の方々の非常に明るい雰囲気不思議と元気をいただきました。診療所のそのような雰囲気は田中先生が自己紹介の中でおっしゃられた「私は寿の街が大好きです」という言葉に集約されているような気がしました。ひるがえって、私自身“寿の街が好き”と言えるだろうかと自問自答してみました。正直な所そのように言い切ることができない自分がいました。好きも嫌いも私には

そう判断できる素材が少な過ぎました。

今回の合宿で感じたのは「やっぱり人とのつながりって大切だなあ」という実感です。保護課という場所で仕事をしていると物の考え方が生活保護制度という枠組みの中で考えているせいなのか偏りがちになっていました。一つの問題に対して多方面から考えていくことは大切だと思うし、ケースワーカーはついつい問題を一人で抱え込みがちですが、今かかわっているのは自分一人だけではないんだと思うとなんだか勇気付けられました。考えてみると寿という街が形成されて50年弱、様々な人が志を持って人々の暮らしを支えるために活動してきました。今の私はそのような方々から情熱を引き継いで仕事をさせてもらっている(世代間継承)のだということに気付くと力が湧いてきます。知らず知らずのうちに一人で悶々と考えていたと

ころがあったので気持ちが楽になった
というか、元気をもらいました。

社会人一年目の私が思うのは、仕事はやればやるほど疲れるのではなく、やればやるほど元気にやっていきたいということです。その基盤になると思うのが仕事に対しての肯定的な思いである気がします。冒頭の田中先生のことばのような「寿という街が好きだ」「寿に暮らす人々が好きだ」という思いはじわりじわりと私の中に育っていると最近になって実感しています。

それと同時にケースの方々に提案できるアイデアも生まれてきています。シリアスな問題ではあるけれどこうやって前向きに考え行動していくと、どんどん仕事がたのしくなってきました。今回の合宿をきっかけに社会人一年目をよい形でスタートできたと思っています。これからも自己研鑽していきたいと思いますのでよろしく願います。

充実した時間をいただき本当にありがとうございました。



夏合宿に参加したみなさんへ

森 梓

昨年越冬に参加し、寿に関わり始めて、診療所のスタッフの方も参加されている寿医療班の活動にお邪魔し、そのつながりで矢島さんから合宿にお誘いいただき、今回合宿に参加させていただきました。看護学生であり、寿についてもっと知りたいと思っ

ている私には勉強会は新しいことを知るチャンスであり、みなさんと花火をしたり、海で遊んだことは夏の楽しい思い出となりました。ま

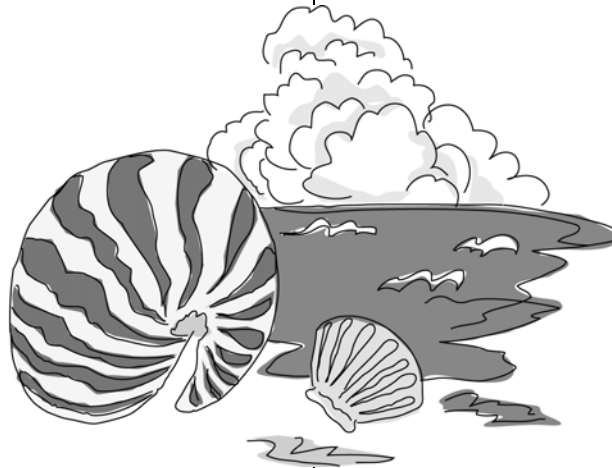
た、普段の学校生活では出会うことのできないみなさんとお話できることは私にとって貴重なことでした。人見知りの私は社会人のみなさんに囲まれてとても緊張していましたが、優しく話し掛けてくださるみなさんに助けられました。ありがとうございました

私は合宿に参加しながら、自分が

そこにいることをとても不思議に思っていました。それは寿を知ったばかりの頃の私には診療所の合宿に参加することなど想像もできなかったからです。寿について知ったのは、寿の近くにある高校に通い始めた頃でした。その頃は駅の近くを歩く行き帰り

におじさんにかまわれることもあり(寿の人なのかわかりませんがそうではないかと考えていました)怖いなぁと思ったこともありま

した。また、からんでくるおじさんを見て、「自分が頑張らなかったのだからあの人は自業自得だよ」と言う友達と、「社会にも問題があるんじゃないかな」と言う友達の二つの意見の間で私は揺れていました。そして、他より優れていることを目指す大学受験の勉強に必死になる毎日の中で、寿の



人に目を向けることや関わる勇気をもつことはあの頃の私にはできませんでした。しかし、大学に進学してからも寿のことが心の片隅で気になり、時間はかかってしまいましたが、寿に関わるきっかけを得たのが今年の越冬でした。それから色々な出会いに恵まれ、良い経験をさせていただいています。診療所にも矢島さんを通じて春休みや今回の合宿後に遊びに行かせていただき、デイケアを見学したり、伸先生の傍らで患者さんの血圧を測らせていただきました。



学校や実習では先生や看護師さんに怒られ、落ち込むことばかりです。看護師になるのは辞めようかなと思うこともあります。しかし、医療班や診療所に行かせていただくと、初心に戻り、私も寿の中で活動できるよう何かを身につけたいと決意を新たにすることができます。「いつか診療所で働いてね」「また遊びに来てね」と合宿で言って下さった方の言葉が私の支えになっています。また落ち込んだときなど遊びに行かせて下さい



復帰の弁

「あれっ？ なんかちょっと太ったんじゃないかねえ？」

加固 実里

お産を終え、身も心も軽くなった気分で職場復帰した当日に、患者さんから言われました。なんとも嬉しいような複雑な印象の洗礼を受け、また共同診療所に戻って来られたことを実感しました。4月より週4回、午前中のみ働かせて頂いてい

ます。まだまだ至らぬ点、不慣れな面、それから性格上の問題も浮き彫りになるかもしれませんが、どうかあたたかく迎えて下さい。頑張りますのでどうぞよろしくお願ひ致します。

職員自己紹介

河野 規美子

ことぶき共同診療所で週2日バイトをしている看護師の河野です。診療所に関わって一年が経過しています。でも働いている日数が少ないので「何となく見たことがある人」という認識を持っている方が多いかと思ひます。

診療所での仕事はほとんど看護業務ですが、たまにデイケア、ごくたまに事務？の仕事をすることがあります。いろいろな経験ができるので、楽しませて頂ひています。

これまでの仕事は看護業務のみだったので、事務やデイケア、鍼灸をするスタッフを身近にみて、診療所や病院はいろいろな人が関わって成り立っていると改めて感じました。

受診される患者さんのほとんどが精神

科ですが、生活環境、食習慣や飲酒によって内科的な疾患を合併している患者さんが多く、また整形外科では腰痛や歩行困難な患者さんも多く、日常生活をするのが困難な方もいます。いずれにしても寿町で多い疾患の特徴だと思ひます。

私ではなかなか力不足ですが、スタッフの皆さんとそのような患者さんを少しでもフォローできればと考えています。今後ともよろしくお願ひします。

ことぶき共同診療所・鍼灸院ガイド

診療科目 **精神科 神経科 内科 心療内科**
整形外科 鍼灸

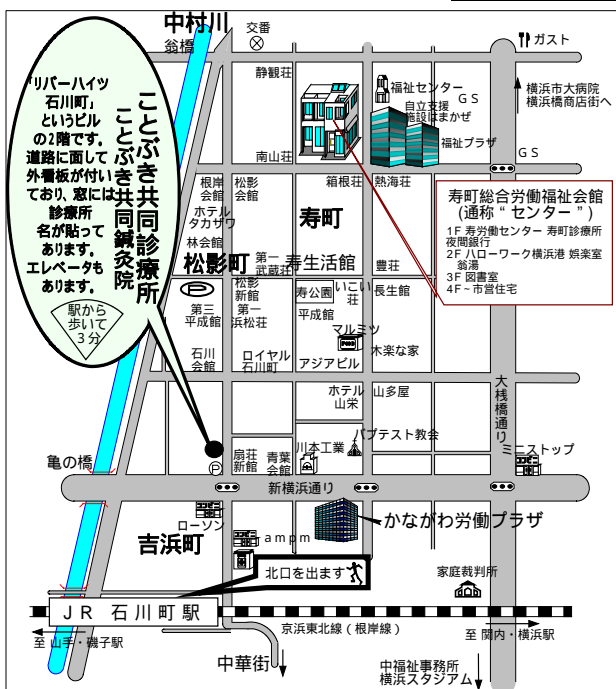
診療所

	9時30分	12時	14時	18時
月	休 診			
火	田中・鈴木		田中・鈴木	精神科・神経科・内科
水	越 智	昼 休 み	越 智	精神科・心療内科・内科
木	田中・鈴木		田中・鈴木	精神科・神経科・内科
金	鈴 木		田 中	精神科・神経科・内科
土		整形外科・精神科・神経科・内科		

第1・2・4・5週 三橋・鈴木
第3週 大脇・鈴木

鍼灸院

	10時	12時	14時	18時
火	新井(矢島)	昼 休 み	新井(矢島)	
水	新井・富永		新井・富永	
木	新 井		新 井	
金	新 井		新 井	



保険扱い

国民健康保険 各種社会保険 生活保護法 精神保健福祉法(その他、医療福祉相談も受け付けています)

なお、鍼灸院は予約制のため、お電話等で確認の上、ご来院ください。

寿町関係資料室

寿町にまつわる資料収集、調査研究を行う「資料室」を併設しています。

共同診療所・鍼灸院の所在地

〒231-0025 横浜市中区松影町 2-7-17
リバーハイツ石川町2F
でんわとファックス
(045) 651-2305

ホームページ

<http://www.kyoudouclinic.com/>

2004年11月20日現在